

6 年 1 組

 自分で意味を見出そうとする子ども
 ～谷浜鍛錬会・掃除・美と力を通して～


一つ一つの経験がつながっていく



7月、第124回谷浜鍛錬会が無事に終わりました。この3日間を振り返った時、語り尽くせないことがたくさん思い出されます。初日、バスから見えてきた日本海を見て「海だーきれい」「早く泳ぎたい」と歓声を上げていたこと。その日の午後、海と出合い、「海に合わせる」という言葉の意味を考え始めたこと。プールでは味わえない波を全身で受け、その中でどう仲間と隊列をつくって泳ぐかという問いをもっていったこと。ビーチファイヤー前に見た最高の夕陽。2日目、担任からの想いを聴いて、それまで以上に「自分の弱さ」と向き合い、「合わせる」ことを大切にしよう

と本気になっていったこと。チームごとでの振り返りが、単なる話し合いでなく、「自分」を語り合う場・時間になっていったこと。午後になって泳ぐ場所が変わり、「鍛錬会」の“意味”を問い直していったこと。そして、みんなで泳ぎ切った15分間泳、20分間泳。自分の成長や最終日への思いを語り合った涙の学年集会。そして最終日、目の前に立ちのぼる自然の猛威。海への恐怖心。逃げたくなる気持ち仲間同士で支え合い、One teamになって挑もうと、子どもたちからの提案で6学年全員で円陣を組んだこと。砂浜から聞こえてくる子どもたちの力強い「エンヤコラ」の掛け声。そして、5分間を5チームでつないだ25分間泳。



【Aさんのつづるノートより】

今日は3日目の海での泳ぎこみでした。波が来て、思わず倒れてしまい、おぼれそうになってあきらめそうになったけど、「これこそが鍛錬会だ」「神様があえてこうしてくれたんだ」と思って頑張りました。（中略）自分のチームが泳ぐ時に緊張したし、おぼれないか心配だったけど、6学年で円陣を組んだ時に「心」がつながった気がしたし、みんなの「エンヤコラ」の声で頑張れました。みんなが泳ぎ切った時、少し泣きそうになりました。理由は、「6学年みんなで25分間バトンをつなぎ切ったな」や「これでもう最後なんだな」と思ったからです。他にも泣いている人がいて、もらい泣きしそうでした。（帰りの）バスに乗る前に、ことぶきやさんと喜久屋さんへお礼の時に、みんなの顔が谷浜に来る前にと変わっていて、成長したなと思いました。本当に楽しくて、成長が出来た3日間だったと思います。この経験を生かして頑張りたいし、集団活動や泳ぎこみでの協力を生かして「美と力」も頑張りたいです。

Aさんや子どもたちがつづったノートを読み、この3日間の経験すべてが子どもたちにとって「本物」だったことを改めて実感しました。「合わせるとは」「チームとは何か」「谷浜鍛錬会に行く意味は」それぞれの問いに対して、子どもたちは自分なりにしっかりと考えてつづっていました。Aさんは、最終日の波も、しっかりと受け止め、それを乗り越えようと挑んでいました。そんなAさんを支えたのが、仲間です。そんな仲間の姿を見て、成長を感じているAさん。本当に素敵だなと感じました。それと同時に、そうやって俯瞰して仲間を見ることができるAさん自身が、一番成長できたと思いました。「谷浜」という環境に身を置き、仲間と共に過ごした3日間で経験してきたことを、残りの小学校生活でも、今後の人生にも活かしてほしいと願っています。

9月中旬、6年生になってからこれまでの掃除の時間の取り組みについて振り返るために学年集会を開きました。そして、6年生としてどんな「掃除」をつかっていきたいか考える場を設けました。その時、子どもたちから出てきたのが「ひとりになる掃除」でした。そのことについて1組では、「ひとりになる掃除とは」という問いを子どもたちと考える時間をとりました。体育館掃除に取り組むBさん、Cさん、Dさんの写真(右の写真)を見せて、「これは“ひとりになる掃除”か」を問いました。すると、Eさんが「近くにはいるけど、話していないなら、“ひとり”になれていると思う」と考えを伝えました。また、Fさんから「“ひとり”になっていると思う。集中してしゃべらないでやっているから」と話しました。さらにGさんは「なんか、目線を合わせて、『ここやったから、そっちお願いね』と目で会話している感じがする」と、写真から感じ取ったことを話しました。そこで私が「目線で会話できたらすごいけど、Gさんが言ったようなことを声に出して掃除するのは、“ひとり”になる掃除にならないのかな」と問うと、Hさんが「掃除の目的はきれいにすることだから、そのためだったら話してもいいと思う」と答えました。その声を聴いた子どもたちは「確かに」とつぶやいたり、頷いたりしていました。



その日の掃除から、子どもたちの掃除が一変しました。ただ単に、形として“無言清掃”をしているのではない、自分の目の前にある場所をきれいにするという目的をもった“無言清掃”が、私の目の前で行われていました。今までだったら声量も気にせず子どもたちに声をかけていた私も、そういう雰囲気ではないことを肌で感じる空気感になってきました。子どもたちと共に“ひとりになる掃除”を共有したことで、みんなで同じ方向を向いて掃除に取り組んでいる毎日に、とても嬉しさと充実感を感じました。

9月に入ってから運動会の「美と力」の練習にも取り掛かり始めました。去年の「美と力」の振り返りを綴っていたファイルを子どもたちに返し、去年の自分を思い出す場を設けました。するとIさんは、『『つかれた』とか『やる意味ある?』』とか書いてあって、今となっては恥ずかしいです」と、5年生の時の自分を振り返っていました。経験したから分かること、自分の成長がきつとたくさんあったのだらうと思います。その後、早速、体慣らして「みかんの花咲く丘」から練習をしました。約1年ぶりだというのに、すぐに動き出せる子どもの多さにびっくりしました。“覚えている”というより、“染みついている”と言った方がよいでしょう。その後、今年の「美と力」をどんなものにしたいか、そのために自分はどうしていきたいかを書きました。



☆去年、自分たちが教えてもらったことを、今の5年生に頑張って分かりやすく伝えたいです。ペアの人と協力しながら、そうじと同じように「ひとり」になることを大切にしたいです。《Jさん》

☆5,6年生だからこそできる最高の美と力をやりたい。理由は分からないけど、そうじの「ひとりになるそうじ」と「一人技」は、なんだか似ていると思った。5年生にやさしく教えて、谷浜と一緒に「心を合わせる」ことを大切にしたいです。《Kさん》

子どもたちが書いた言葉を読んでいて、本当に驚かされっぱなしの私がいきました。それは、去年とは確実に違う言葉がたくさんあったからです。5年生と共に、今年にしかできない「美と力」をつくろうとしている子。みんなで今向き合っている「掃除」や谷浜と、「美と力」をつなげて考えている子。掃除だけではなく、谷浜鍛錬会だけではなく、経験してきた1つ1つの「こと」が、「美と力」につながっているんだということを、JさんやKさんから教えてもらいました。「掃除」も「美と力」も、もちろん日々の暮らしも、その子自身が「意味」を見出していけるものとなっていくように、私も子どもたちと共に、1つ1つのことに向き合ってきたいと思いました。